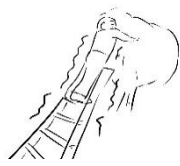


驕慢

あるお参りの時で
した。その家には、
すももの木がありま



カラスやくん
あんたは暑く
ないんか糸

カラスやくん

す。齡九十を超えた人生の先輩が梯子を持って、太い枝
にかけ、昇ろうとしていました。足元はふらついていま
す。誰がどう見ても危ないのです。子や孫らが危ないと
いつて、人生の先輩を梯子から下ろしました。人生の先
輩は、「余計の心配をしおつて」と怒っておられました。

人間の眼は、外を見るように配置されています。自分
を見る為ではありません。外の事は見えても自分の事
は、よつぽど気を付けないと見えなのです。自分はず
きるはずだ、自分には関係がない、自分には起きるはず
がないと思ひ込むことを「驕慢」といいます。おごりの
煩惱です。

正信偈には、邪見驕慢悪衆生（おごり・たかぶり・よ
こしまの私）と記されています。手を合わせることは、
外向きの眼を、自分に向ける機会であること。念仏を称



えることは、常に阿弥陀仏に呼びかけ
られていること。最近、人から注意をさ
れていない人は、特に気を付けましょ
う。

こんなところに 仏教用語

用 教 仏 近 身
語 を 紹 介 し て
い ます。

敬礼

ドラマなどで「敬礼！」と
いうシーンがあります。あな
たはどんな画が浮かびまし



たか。私は右手を額に近づけるポーズが浮かびました。警察や
自衛隊、軍隊などで用いられる作法です。何故、あの型なのか
といいますが、右手を上げることは、武器を使えないことを表
し、相手に敵意がないことを示す意味があるのだそうです。

今回ご紹介の「敬礼」は仏教用語なのです。仏教では「きよ
うらい」と読みます。「敬礼」は省略された言葉で、元は
「恭敬礼拝」です。恭しく敬い礼拝することを「敬礼」という
のです。なんまんだぶと手を合わせることも敬礼の一つです。
最高の敬礼の作法は五体投地です。両手両足頭の五体を地につ
ける作法です。最近ではヨガでも用いられるポーズとして知ら
れるようになってきました。行の中には、一歩歩いては
五体投地、一歩歩いては五体投地と進むものや、写経では一文
字書いては五体投地、一文字書いては五体投地と間違わないよ
うに書き写す方法があります。



決して効率をよくありません。仏教の修行には、
延々と単純作業を繰り返すことが多くあります。
効率を追い求めている現代人の忘れ物が敬礼なの
かもしれません。